

令和4年度 事業報告

我が国においては、人口減少、少子高齢化が進展し、人生百年時代を迎えた今、誰もが生涯現役で活躍できる社会の実現が求められています。

そのような中、シルバー人材センターは、地域の日常生活に密着した就業機会を提供するなどにより、高齢者の社会参加を促進し、高齢者の生きがいの充実、健康の保持増進、ひいては地域社会の活性化と医療費や介護費用の削減などに寄与しているところです。

しかしながら、令和4年度のシルバー人材センターを取り巻く環境は、長引く新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、生きがいのため就業している会員の就業機会が減少し、それに伴い会員が退会し会員数が減少するなど、シルバー人材センターの根幹に関わる大きな問題が発生している状況となっていました。

そこで、令和4年度は、コロナ禍の影響に対する回復を目指し、「就業機会の拡大」と「会員の拡大」を最重点項目に位置づけし、それらの対策に重点的に取り組みました。

まず、「就業機会の拡大」では、シルバー人材センターが取り扱っている仕事の内容を広く知ってもらうことが重要であることから、市内全世帯へのPRチラシの新聞折込みなど、PR活動の強化に取り組みました。また、受注事業の継続確保と再受注ができるよう、これまでの発注者に対して直接訪問や手紙によるセールス活動の強化に取り組むとともに、空き家見守りサービスと墓守サービスをふるさと納税返礼品に登録するなど、withコロナ社会における新たな需要に対する新規事業の開拓にも取り組みました。

そして、「会員の拡大」においても、シルバー人材センターの仕事内容や魅力等を広くPRすることが効果的であることから、市内全世帯へのPRチラシの新聞折込みなど、PR活動の強化に取り組みました。さらには、入会率の低い女性に対する取組は重要であることから、女性限定の入会説明会や女性が興味のあるセミナーを開催するなど、女性会員の入会促進に積極的に取り組みました。

その結果、令和4年度の受注額（介護保険事業を除く。）は、請負・派遣を合わせて前年度比約9.3%増の7億9千万円となり、令和4年度目標の7億5千万円を上回り、コロナ禍前の令和元年度の受注額 8億1千万円まで、あと少しの所まで回復しました。

また、会員数についても、令和4年度末の会員数は、前年度比83人増の2,140人となり、コロナ禍前の令和元年度末の会員数2,211人まで、あと少しの所まで回復しました。なお、会員数の増加は、コロナ禍以降初めてとなります。

このように、コロナ禍の影響に対する取組は、着実に成果を上げており、令和5年度の実績により、受注事業及び会員数とも、コロナ禍前まで回復するものと考えており、令和5年度においても、引き続き、「就業機会の拡大」と「会員の拡大」を最重点項目として位置づけし、コロナ禍の影響からの完全回復を目指し、危機感を持って取り組んでまいります。

また、令和5年10月に消費税において適格請求書等保存方式（インボイス制度）が導入予定であり、シルバー人材センターは多額の消費税を負担しなければならなくなることから、国に対して、会員に支払う配分金については、インボイスがなくとも仕入等に係る消費税額に認められる特例制度の導入を、全国及び県内すべてのシルバー人材センターと連携して要望活動に取り組みましたが、特例制度の導入は認められませんでした。

しかしながら、国において、シルバー人材センター及び会員が負担増とならない包括的契約方式の導入が検討され、本市シルバーでも、令和7年4月1日を目途に包括的契約方式の導入に取り組んでまいります。

そして、これらの取組を着実に進め、会員がいつも笑顔で生きがいを持って就業し、また、シルバー人材センターが会員相互の交流・親睦を通じて楽しい場所となれるよう、「働きたいと思う会員の方にしっかりと仕事が提供できる」環境整備を図るとともに、「入会したい・ずっと入会していきたい」と思える魅力あるセンターづくりに取り組んでまいります。

以下、令和4年度の事業実績状況について、報告いたします。

〔事業実績〕

契約金額	(請負・委任事業実績)	595,315,456円	(5.4% 増)
	(派遣事業実績)	191,251,843円	(23.6% 増)
	(訪問介護事業実績)	18,811,524円	(1.1% 増)
	(通所介護事業実績)	33,458,571円	(1.1% 増)
	(居宅介護事業実績)	12,035,271円	(6.5% 減)
	(介護予防・日常生活支援総合事業)	11,914,120円	(5.7% 減)
	合計	862,786,785円	(8.3% 増)
契約件数	(請負・委任事業実績)	6,296件	(1.6% 増)
	(派遣事業実績)	257件	(33.2% 増)
	(訪問介護事業実績)	54件	(1.8% 減)
	(通所介護事業実績)	30件	(3.4% 増)
	(居宅介護事業実績)	94件	(27.7% 減)
	(介護予防・日常生活支援総合事業)	89件	(12.7% 増)
	合計	6,820件	(2.1% 増)
就業率(派遣を含む)		80.0%	(0.4ポイント増)
会員数		2,140人	(83人増)
	内特別会員	1人	
	内特別正会員	70人	(7人増)
賛助会員数		54団体	(2団体減)

1. 就業機会の拡大

シルバー人材センターの受注額は、長引く新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、コロナ禍前の令和元年度と比較して大きく減少している状況でした。

そこで、令和4年度において、受注事業の回復を目指し、PR活動の強化やセールス活動の強化をはじめとする受注額の回復策に積極的に取り組みました。

その結果、令和4年度の受注額（介護保険事業を除く。）は、請負・派遣を合わせて前年度比約9.3%増の7億9千万円となり、令和4年度目標の7億5千万円を上回り、コロナ禍前の令和元年度の受注額8億1千万円まで、あと少しの所まで回復しました。

このようなことから、令和5年度においても、引き続き、受注額の回復策に積極的に取り組み、コロナ禍の影響からの完全回復に取り組みます。

【受注額・就業率の推移】

(千円)

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	R4目標
請負・委任事業	695,510	578,134	564,859	595,315	570,000
派遣事業	116,338	112,057	154,767	191,252	180,000
計	811,848	690,191	719,626	786,567	750,000
就業率	74.3%	69.6%	79.6%	80.0%	80.0%

(1) PR活動の強化

シルバーが取り扱っている仕事の内容を市民及び企業等をはじめ広く知ってもらうことが重要であり、PR活動の強化に取り組みました。

- ① PRチラシの新聞折り込みなどの方法等により、市内全世帯へのPRを行いました。

- 新聞折込み 4回（福井新聞 6/12、7/17、11/3、2/25）
- 自治会回覧 1回（市政広報 8/10 配付時）

【成果】受注件数 26件

- ② 企業・団体等の広報誌等を利用した企業等へのPRを行いました。

- 福井商工会議所の会員(約 6,500社) 2回（7/10、2/13）

- ③ 新聞・テレビ・雑誌等を利用したPRを行いました。

- 福井新聞「ぷりん」 4回（4/17、5/29、7/3、11/20）
- ケーブルTV雑誌「けーぶるちゃん」(11月号)

- ④ 商工会議所をはじめとする各種団体の総会等での PR を行いました。
 - 福井商工会議所・議員懇談会 (10/3)

【成果】 受注件数 1 社・9 件
- ⑤ ホームページ・SNS 等による PR を行いました。
 - 子育て世代を対象としたフェイスブック・HP の開設(7/1)
 - Web 受注システムの開設(7/21)
- ⑥ 会員による PR 活動を依頼しました。
 - 会員への依頼 かわら版 (4、7、9、1 月号)・HP
- ⑦ 多岐にわたる団体等を把握している公民館・自治会等に対する PR を行いました。
 - 7 月に理事、ブロック長、地区長、職員が全公民館を訪問

(2) セールス活動の強化

受注事業の継続確保のため、既に契約している発注者へのセールス活動の強化に取り組むとともに、新たな受注事業の拡大のため、シルバーの利用を必要としている企業等へのセールス活動に取り組みました。

- ① 既に受注している事業の発注者に対して、企業・団体等へは直接出向き、市民等へは手紙によるセールス活動を行いました。
 - 発注者へのお礼と継続発注依頼の手紙の発送 6/20・約 2,500 件
 - 企業等への直接訪問 6、7、10 月実施・56 社

【成果】 仕事の問合せ 5 件
- ② 企業等や地域の実状に精通している公民館等との連携強化により、シルバーの利用を必要としている企業等を掘り起こし、セールス活動を行いました。
 - 7 月に理事、ブロック長、地区長、職員が全公民館を訪問
- ③ 職員として継続できない退職予定者を引き続き雇用したい企業等に対して、シルバー会員としての就業を推奨するセールス活動を行いました。
 - 福井商工会議所の会員(約 6,500 社) 2 回 (7/10、2/13)
- ④ 会員に対して、既に受注している事業の発注者に対するセールス活動を依頼しました。また、会員が新たに事業を受注した場合には、ポイント制度のポイントを付与し、年間 3 件以上を受注した場合には総会で表彰します。
 - 会員への依頼 かわら版 (4、7、9、1 月号)・会報あじさい・HP

- ⑤ 県連合が主催する「シルバーマッチング商談会」に参加し、企業にシルバー人材センターの事業を詳しく説明し、受注につなげました。

○ シルバーマッチング商談会 2・3月開催、職員3名が参加

【成果】受注件数 4社・7件

- ⑥ 発掘作業実施事業所に対するセールス活動については、発注予定がなかったため実施しませんでした。

(3) しごとの質の向上・維持

受注事業の継続確保のため、研修会及び講習会を開催し、会員の就業の質及びマナーの向上・維持を図るとともに、就業の成果を点検するための顧客満足度調査を実施しました。

- ① 専門講師による研修会及び講習会を開催しました。

○ 清掃業務講習会 3回(5/26、9/26、3/13)、受講者 30名

講師：(株)ダスキン

○ 施設管理業務講習会

➤ スポーツ施設管理業務従事者対象

1回(12/8)、受講者 21名

➤ 地域交流プラザ管理業務従事者対象

2回(7/25、8/1)、受講者 16名

○ マナー講習会 1回(3/2)、受講者 100名、講師：シルバー会員

- ② 職群班に対して、実務講習会の開催を働きかけました。

○ 実務講習会 7班で実施

- ③ 顧客満足度調査を実施しました。

○ 顧客満足度調査 3月実施、派遣先 88社(うち回答 56社)

[調査結果] 大変満足・満足=98% : 不満 2%

[活用] 適正就業部会での改善策の検討

従事会員への指導、新規就業会員への注意

(4) 新規事業の開拓

就業機会を確保するため、with コロナ社会における新たな需要に対する新規の事業開拓に取り組みました。

- ① 「空き家見守りサービス」と「墓守サービス」をふるさと納税の返礼品として登録しました。

- ② 学校や企業等の抗菌・消毒業務を行う「抗菌・消毒グループ」の新設に取り組む予定でしたが、会員へのコロナ感染の危険性を考慮し、取り止めました。

- ③ 家庭等の清掃業務を行う「クリーンサービス・しるばーぴかぴか隊」を新設しました。

○ クリーンサービス・しるばーぴかぴか隊 1班・3人体制

【成果】豊小学校(月1回)、個人等 12件

(5) 受注量の多い業務の体制整備

受注量が多い、多く見込める業務の体制整備に取り組みました。

- ① 受注量の多い業務（清掃・剪定・除草・草刈など）の担い手不足を解消するため、研修会及び講習会を開催し、従事会員の育成に取り組みました。
- [草刈] 7/28・6名参加、[剪定] 13日間(9/16～12/13)・15名参加
- ② 介護プランナーを配置し、人材不足である介護施設に対して、清掃、調理、送迎等の補助業務の受注提案を行い、業務拡大に取り組みました。
- 【成果】受注実績 藤島園 4件、ケアホームさいせい 5件
- ③ 福祉・家事援助サービス従事者初級講習会を、年6回開催し、従事会員の育成に取り組みました。
- 講習会 6回(4/28、5/31、7/26、9/27、12/23、1/24)・39名参加
- ④ 子育てサポーター研修会を年2回開催し、すみずみ子育てや一時預かり施設で就業する会員の育成に取り組みました。
- 研修会 1回目(5/23～26・9名参加)、2回目(11/14～18・8名参加)

(6) 事務局体制の強化

- ① 業務課所管の福祉家事援助・育児支援サービス業務は、介護保険事業所所管の介護関係業務と関連性があり、介護プランナーを業務課に配置し、業務課と介護保険事業所との連携強化に取り組みました。
- 4月1日に介護プランナー1名を採用
- ② 受注事業の継続確保及び拡大の達成のため、管理体制の強化と職員の資質向上に取り組みました。
- 業務課に副課長2名(本所1名・清水越廼支所1名)を配置しました。
- 民間主催の研修会等へ積極的に参加するとともに、事務局内での勉強会を定期的で開催し、職員の資質向上を図りました。
- ③ 会員の利便性の向上及び事務効率の向上並びに経費節減の観点から、フェニックス・プラザにある事務局をワークプラザに移転することの検討に取り組みましたが、会員及び施設利用者の十分な駐車スペースが確保できないことから、当面、事務所の統合は困難であるという結論となりました。

2. 会員の拡大

会員数についても、受注事業と同じく、長引く新型コロナウイルス感染症拡大の影響による就業機会の減少に伴い退会者が続出するなど、減少傾向となっていました。

そこで、令和4年度において、受注事業の回復とともに、入会者の確保や退会者の抑制をはじめとする会員数の回復策に積極的に取り組みました。

その結果、令和4年度末の会員数は、前年度比83人増の2,140人となり、コロナ禍前の令和元年度2,211人まであと少しの所まで回復しており、会員数の増はコロナ禍以降初めてとなりました。

このようなことから、令和5年度においても、引き続き、会員の拡大に積極的に取り組み、コロナ禍の影響からの完全回復に取り組みます。

【会員数の推移】

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	R4目標
会員数	2,211人	2,076人	2,057人	2,140人	2,211人

入会者数	274人	194人	222人	343人
退会者数	240人	329人	241人	260人

(1) 仕事の提供の環境整備

しっかりと仕事が提供できる環境整備の強化に取り組みました。

① 入会から就業機会提供までのルールを設定

入会后すぐに就業機会を提供する新たなルールを設定し、しっかりと仕事が提供できるよう取り組みました。

○ 入会者に対する就業斡旋 [R4.4 から実施]

- 入会面談時 個別相談会を実施
- 入会后1カ月・3カ月 未就業者に対する就業斡旋を実施

【実績】就業斡旋286名（入会者343名）

② 就業情報の提供と仕事相談会の開催

就業情報をわかりやすく提供するとともに、令和3年度に実施した出張仕事相談会を定期的の実施し、働きたいと思う会員の方にしっかりと仕事が提供できるよう取り組みました。

○ わかりやすい就業情報(仕事内容・時給など)の提供 [R4.4 から実施]

- 掲示板(本所、WP、支所)、テレホンサービス、HP、メール

○ 仕事相談会の開催

- 5月開催(5カ所・8名)、8月開催(5カ所・28名)
- 会員への周知 かわら版(4月・7月)、SMS

- ③ 会員データの細やかな管理と活用
会員のキャリアや資格等をデータベース化し、個人の希望に添った仕事の紹介に活用し、会員と仕事とのミスマッチをなくしました。

(2) 魅力あるセンターづくり

就業による生きがいづくりだけでなく、シルバー人材センターが会員相互の交流・親睦等を通じた楽しい場所となれるよう、魅力あるセンターづくりに取り組みました。

① 魅力ある事業の実施

ふれあいまつりを盛大に開催するとともに、地区活動及び職群班活動等に対する支援を強化し、会員相互の親睦・交流の促進に取り組みました。

○ ふれあいまつりの開催

会員のコロナ感染防止の観点から、会員限定・分散開催

- 会員限定対象のふれあいまつり

R4.10.22(土)・フェニックスプラザ 参加者 455 名

- 市民への普及啓発・パネル展

R4.11.7(月)～9(水)・ハピテラス等 来場者 237 名

【成果】入会者 2 名、入会説明会予約 9 名、仕事受注 1 件

○ 地区活動への支援強化 (6/28 ブロック長・地区長会議で説明)

- 使いやすい地区活動支援制度

ボランティア活動参加への支援(1人あたり 2,000 円)

- 副ブロック長の新設

○ 職群班活動への支援強化

- 職群班会議・実務研修会開催への支援

② 会員互助会活動の充実強化への支援

会員の楽しみである会員互助会活動について、会員互助会とともに事業の充実強化に取り組みました。

○ 事務局職員の会員互助会活動への参画

日帰りバス旅行(10/31)に添乗員役として参画 (6 名)

○ 会員互助会への支援

ふれあいまつりに関する経費の全額支援

③ 生活相談事業の実施

就業以外の年金や介護等の日常生活に関する生活相談会の開催に取り組みました。

○ 生活相談会の開催(フェニックス・プラザ)

- 確定申告講演会・相談会(2/10) 参加者 34 名・相談 11 名

- 年金に関する講演会(3/15) 参加者 13 名

④ SMSによる会員と事務局のつながりの強化

会員へのSMSによるイベント等の情報をきめ細やかに発信し、会員と事務局との交信による繋がり強化に取り組みました。

(3) 入会者の確保

シルバーの仕事内容及び魅力等を広くPRし、効果的な勧誘活動に取り組むとともに、入会しやすい会費制度の導入や個別入会相談会の強化に取り組みました。

① PR活動の強化

仕事内容及び魅力等のPR活動の強化に取り組みました。

- PRチラシの新聞折込みなどの方法等により、市内全世帯へのPRを行いました。

- 新聞折込み 4回（福井新聞 6/12、7/17、11/3、2/25）
- 自治会回覧 1回（市政広報 8/10 配付時）

【成果】入会者 26名

- 新聞・テレビ・雑誌等を利用したPRを行いました。

- 福井新聞「ぷりん」 34回
- 市政広報 教室・講習・女性セミナーの参加者募集
- ケーブルTV雑誌「けーぶるちゃん」 4回

【成果】入会説明会参加者 84名

- 多岐にわたる団体等を把握している公民館との連携強化により、老人会や各種教室の参加者に対してPRを行いました。

- 7月に理事、ブロック長、地区長、職員が全公民館を訪問

- 企業等との連携強化を図り、退職予定者に対するPRを行いました。

- 福井商工会議所の会員(約 6,500社) 2回(7/10、2/13)

- 人が多く集まる場所での入会用パンフレットの配布を行いました。

- R4.11.7(月)～9(水)・ハピテラス等

② 勧誘活動の強化

効果的な勧誘活動の強化に取り組みました。

- 入会理由で最も多いのが会員知人による紹介であり、会員に対して、「会員による一人の入会者の獲得運動」を依頼しました。また、会員が新規会員を獲得した場合には、ポイント制度のポイントを付与し、年間3人以上の会員を獲得した場合には総会で表彰します。

- 会員への依頼 かわら版(4、7、9、1月号)・HP

【成果】会員による入会者獲得 24名

年間3人以上の会員獲得者(総会表彰) 2名

- 企業等との連携強化を図り、退職予定者に対する勧誘活動に取り組みました。
 - 退職者向けセミナーの開催(3/4)
 - 【成果】入会者 4 名
- ハローワークに来所する高齢者向けの相談窓口を開設しました。
 - 相談窓口の開設 月 2 回開設(5 月から)
 - 【成果】相談者累計 87 名
- ③ 入会しやすい会費制度の導入

入会しやすい会費制度の導入に取り組みました。

 - 夫婦で会員の場合は、一人分の会費を減免する制度を導入しました。
 - 夫婦で会員の場合は、どちらか一人の会費を 1,000 円とする。
 - 【成果】新規会員 4 名（夫婦会員 55 組）
 - 就業の希望がなく、会員互助会活動のみが入会目的の場合は、会費を減免する制度の導入を検討しましたが、効果が不透明なことから、引き続き検討します。
- ④ 多様化するニーズに対応した入会説明会の開催

これまでも定期的に開催している入会説明会について、多様化するニーズに対応できるよう、入会説明会後に個別相談会を行いました。

 - 入会説明会後の個別相談会の開催
 - 入会説明会開催回数 26 回
- ⑤ わかりやすい入会説明会の開催

シルバーでの就業体験を紹介し、働くイメージを把握しやすくしました。

 - 入会説明会で理事等が就業体験談を説明
- ⑥ 女性会員の入会促進

これまでも重点的に取り組んできた女性会員の獲得について、引き続き、女性限定の入会説明会や女性が興味を持つ内容のセミナーの開催に取り組みました。また、女性目線での入会促進策や活動の活性化策等を検討する「女性活躍部会」を設置しました。

 - 女性限定入会説明会の開催
 - 3 回開催（5/19、8/1、11/4）
 - 【成果】入会者 19 名（参加者 36 名）
 - 女性セミナーの開催
 - 4 回開催（7/26、7/28、8/9、8/10）
 - 内容：発声と滑舌、リンパマッサージ、体操、音楽 など
 - 【成果】入会者 12 名（参加者 82 名）
 - 女性活躍部会の設置 部会員 5 名

(4) 退会者の抑制

退会希望者に対する聞き取りを行い、個々の理由に対応した退会抑制に取り組みました。

- ① 退会希望者に対する退会抑制の取組と特別正会員移行への勧奨
退会希望者に対する聞き取りを行い、個々の理由に対応した退会抑制に取り組みました。また、高齢等の理由で退会を希望する会員に対しては、特別正会員(ゴールド会員)への移行を勧奨し退会抑制に取り組みました。
 - 退会希望者のうち未就業者・会費未納者に対する就業斡旋と会費減免制度の説明
【成果】退会抑制 1 名 (斡旋 8 名)
 - 高齢等を理由とする退会希望者に対する特別正会員への移行推奨
【成果】退会抑制 2 名 (斡旋 5 名)
- ② 未就業会員に対する会費減免制度の試行
就業機会がないために会費未納で退会することを抑制するため、未就業会員の次年度の会費を減免する制度を令和 4 年度に試行しましたが、効果が不透明なことから、令和 5 年度も引き続き試行期間として実施します。
 - 1 年間未就業の場合は、次年度会費を 1,000 円とする。
【成果】 228 名入会継続 (対象者 293 名)

3. 組織活動の活性化

新型コロナウイルス感染症拡大のため滞っていた組織活動の活性化を図り、会員相互の親睦・交流の促進とつながりの強化に取り組みました。

(1) 地区組織の活性化

地区活動に対する支援を強化するとともに、ふれあいまつりのイベントをブロック毎で企画・運営する取組などを通して、会員相互の親睦・交流の促進と地域のつながりの強化に取り組みました。また、地区活動の重要さを共有するため、地区組織役員(ブロック長、地区長、地区班長)の研修会を実施しました。

- 地区活動への支援強化 (6/28 ブロック長・地区長会議で説明)
 - 使いやすい地区活動支援制度
ボランティア活動参加への支援(1 人あたり 2,000 円)
 - 副ブロック長の新設
- 地区組織役員の研修会の開催
 - ブロック長・地区長研修会 (6/28、2/27)
 - ブロック長・副ブロック長研修会 (7/27)

- ふれあいまつりの開催
 会員のコロナ感染防止の観点から、会員限定・分散開催
 R4.10.22(土)・フェニックスプラザ 参加者 455 名
 ブロック担当の屋外屋台村は中止

(2) 職群班活動の充実

職群班活動に対する支援を強化し、同じ職群で仕事をする仲間として、会員相互の親睦・交流の促進とつながりの強化に取り組むとともに、職群班内での研修等の充実を図り、事故防止と後継者の育成に取り組みました。

- 職群班活動への支援強化
 - 職群班会議・実務講習会の開催への支援
 7 班 × 2,000 円

(3) イベント参加者へのポイント制度の実施

会員に対し、センターの各種イベントへの参加を促進するため、イベント参加者にポイントを付与する制度を引き続き実施しました。

- イベント参加者へのポイント付与制度の実施
 - ポイント制度の見直し 4/28 会員拡大・広報部会
 - 制度の周知 かわら版 (4、7、9、1月号)・HP

4. 安全・適正就業の推進

シルバー人材センターの就業の基本は、会員が健康で安心して働き、事故のない就業であること、さらには、発注者から喜ばれ信頼を得られる誠実・丁寧な仕事をすることです。

しかしながら、最近、傷害事故及び賠償事故が多く発生していることから、「安全はすべてに優先する」という理念に立ち返り、安全就業の徹底に取り組みました。

その結果は、令和 4 年度目標の重篤事故 0 件は達成できたものの、傷害事故及び賠償事故は達成できませんでした。

このようなことから、令和 5 年度においても、引き続き、安全就業の徹底に取り組みます。

また、適正就業では、法令を遵守した適正就業の推進と、発注者から喜ばれ信頼を得られる誠実・丁寧な仕事となるよう、就業の質の維持・向上に取り組みました。

【事故件数の推移】

	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
重篤事故	1 件	0 件	0 件	0 件
傷害事故	7 件	15 件	18 件	13 件
賠償事故	7 件	4 件	5 件	8 件

R4 目標
0 件
10 件未満
2 件未満

(1) 安全就業の推進

① 受注時の就業条件の確認

業務の受注時に、就業条件が「安全就業基準」に合致しているかを精査・確認することを徹底しました。

○ 業務課内勉強会の実施(4/20)

業務課職員の「安全就業基準」の理解の徹底

② 安全就業の徹底と安全パトロールの強化

安全就業のため、全会員に対し「安全就業基準」の周知・徹底に取り組むとともに、安全就業部会で検討した内容を、かわら版等を通じて全会員に周知・徹底しました。

また、安全パトロールでは、賠償事故が多く発生している草刈り作業では防護ネットの設置確認や指導を行い、剪定作業では転落防止のための脚立固定や墜落制止用器具着用の確認など、細部にわたる安全指導を行い、事故の未然防止に取り組みました。

○ 会員への「安全就業基準」の周知・徹底

➤ 職群班(除草・草刈・剪定)での周知・徹底

➤ 入会説明会での周知・徹底

➤ 安全就業部会での検討内容の周知(かわら版4、7、9、1月号)

○ 安全パトロールの実施 12回

③ 作業用機械の使用に関する研修の実施

草刈払機や動力バリカン、チェーンソー等の作業機械を安全に使用するための研修を実施しました。

○ 草刈払機取扱作業講習会

7/28・参加者6名 講師:(株)北村商事社長

④ 安全運転対策

公用車使用時の年齢制限を徹底するとともに、安全運転講習会を開催し、安全運転の強化に取り組みました。

○ 安全運転講習会

3/2・参加者100名 講師:福井署交通課長

⑤ 効果的なSMSの活用

SMSやメールシステムを活用して、季節毎に事故防止と体調管理の注意喚起を行いました。

⑥ 新型コロナウイルス感染症及び熱中症対策

SMSやメールシステムを活用して、新型コロナウイルス感染症及び熱中症対策に関する注意喚起を行いました。

⑦ ペナルティ制度導入の検討

損害賠償事案が生じた場合に、過失の程度等によりペナルティを課す制度の導入を検討しました。

○ ペナルティ制度の導入 (R4.12～)

事故原因が安全対策の不十分である場合に、過失の程度等により、就業停止などのペナルティを科す制度を導入しました。

(2) 適正就業の推進

① 適正就業ガイドラインに基づく適正な受注

国が示す「シルバー人材センターにおける適正就業ガイドライン」の内容を発注者に説明し、適正な受注の徹底に取り組みました。

○ 業務課内勉強会の実施(4/20)

業務課職員の「適正就業ガイドライン」の理解の徹底

② 不適正な請負契約の是正

関係法規に基づき、不適正と判断される請負契約については、派遣契約への切り替えに取り組みました。

○ 不適切案件の洗い出し・是正

【成果】 2件是正

③ 就業交代制の推進

就業交代制の対象業務の拡大に取り組みました。

○ 就業交代制の実施

就業希望をかわら版で公募し、面接等で選考

【成果】 新規に7件実施

④ ワークシェアリングの推進

臨時的・短期的就業の観点から、週20時間を超える就業についてはワークシェアリングの推進に取り組みました。

○ ワークシェアリングの実施

【成果】 新規に1件実施

⑤ 職業紹介事業の活用

発注者の要望に応じて「職業紹介事業」を活用し、会員の就業の継続に取り組みました。

○ 職業紹介事業の活用

【成果】 1件実施

(3) 就業の質の向上

シルバーの信頼性を高めるためには、完成度の高い仕事、礼儀正しい節度ある接客応対は不可欠です。研修会・講習会を開催し、就業の質とマナーの向上に取り組むとともに、就業の成果を点検するため、職群班グループ班長のチェック及び顧客満足度調査を実施しました。

① 専門講師による清掃業務講習会の実施

専門講師による清掃業務講習会を年3回実施しました。

- 清掃業務講習会 3回(5/26、9/26、3/13)、受講者 30名
講師：(株)ダスキン

② 施設管理業務従事者講習会の実施

スポーツ施設等の管理業務従事者を対象とした清掃・接客講習会を実施しました。

- スポーツ施設管理業務従事者対象 1回(12/8)、受講者 21名
- 地域交流プラザ管理業務従事者対象 2回(7/25、8/1)、受講者 16名

③ マナー講習会の実施

礼儀正しい節度ある接客応対ができるようマナー講習会を実施しました。

- マナー講習会 1回(3/2)、受講者 100名、講師：シルバー会員

④ 職群班グループ班長によるチェック

職群班グループの班長の役割を明確にし、班長による仕事の完成度のチェックを定期的に行いました。

- 職群班会議の開催 7班
- 職群班グループ班長の現場巡回 清掃業務・2回6カ所

⑤ 顧客満足度調査の実施

就業の成果を点検するため、顧客満足度調査を実施しました。

- 顧客満足度調査 3月実施、派遣先 88社(うち回答 56社)
[調査結果] 大変満足・満足=98% : 不満 2%
[活用] 適正就業部会での改善策の検討
従事会員への指導、新規就業会員への注意

5. 地域貢献と普及啓発活動

就業やボランティア活動を通して、地域から親しまれ、頼られるセンターづくりを目指すとともに、積極的なPR活動による認知度向上に取り組みました。

(1) 地域貢献

① 就業による地域貢献

公園や河川敷の草刈り、「シルバーママサービス」の託児事業や「おやこの広場 あ・の・ね」の親子交流事業、ディサービスをはじめとする介護関係業務、地域で困っている高齢者のサポート事業である「ワンコインサービス」や「えがおでサポート事業」など、就業を通じた地域貢献の拡大に取り組みました。

② 地域と密着したボランティア活動の実施

公共施設や公園の草刈り、空き缶拾いなど、地域に喜ばれるボランティア活動を実施しました。

- 「シルバーボランティアの日(10/15)」の活動 参加者 226 名
- 「[会員互助会] 花火の翌日の足羽川河川敷清掃」 参加者 81 名

(2) 普及啓発活動

① 発刊物による普及啓発活動

シルバー人材センターの活動を広く市民に知ってもらうため、PRチラシを市内全世帯に配布または回覧するとともに、会報・かわら版及び案内パンフレットやチラシ入りポケットティッシュを公民館に配架しました。

- PR チラシの新聞折込み 福井新聞 4 回(6/12、7/17、11/3、2/25)
- PR チラシの自治会回覧 1 回 (市政広報 8/10 配付時)
- ケーブル TV 雑誌「けーぶるちゃん」 2 回
- 公民館への協力依頼
7月に理事、ブロック長、地区長、職員が全公民館を訪問
PR チラシ・会報・かわら版・案内パンフレット・チラシ入り
ポケットティッシュの配架を依頼

② ふれあいまつりの開催

ふれあいまつりを開催し、シルバー人材センターの活動を広く市民に PR する予定でしたが、会員のコロナ感染防止の観点から、会員限定・分散開催となりました。

- ふれあいまつりの開催
 - 会員限定対象のふれあいまつり
R4.10.22(土)・フェニックスプラザ
 - 市民への普及啓発・パネル展
R4.11.7(月)～9(水)・ハピテラス等 来場者 237 名

③ フェニックスまつり民踊の部への参加

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で2年間中止となっていた「福井フェニックスまつり民踊の部」に参加し、元気な高齢者をアピールしました。

- 「福井フェニックスまつり民踊の部」の参加
8/27、参加者 44 名 (会員 34 名・職員 10 名)

④ シルバーフェスタ (県連合主催) への参画

- 10/8・ハートピア春江、参加者 42 名

6. 介護保険事業の充実

元気な高齢者等が、介護を必要とする立場にある高齢者に対して、長年生活した環境を維持しながら、安心して健やかに自立した生活が営めるために継続的な支援を行いました。また、新型コロナウイルス感染症防止対策を徹底し、介護保険事業等の一層の充実に取り組みました。

【介護保険事業所の契約金額の推移】

(千円)

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	R4目標
契約金額	90,642	80,446	77,217	76,219	81,500
訪問介護	25,445	25,845	18,614	18,812	21,700
通所介護	37,676	29,595	33,096	33,459	34,800
居宅支援	11,907	12,928	12,870	12,035	12,500
総合事業	15,614	12,078	12,637	11,914	12,500

(1) 居宅介護支援事業

① 新規利用者の開拓活動の実施

- ・ 地域包括支援センターとの連携を強化して、新規利用者（要支援・要介護）の拡大に取り組みました。
- ・ 会員やその家族からの介護相談により、新規利用者の拡大に取り組みました。

○ かわら版(4月)で会員等へ周知

【成果】新規利用者 23名

② 職員の資質の向上

- ・ 職員は他の機関が開催する研修に積極的に参加して自己研鑽に取り組みました。
 - ケアマネージャ3名が令和4年度研修計画に基づき受講
 - 中央北包括主催 事例検討会7回、CM勉強会8回
 - すこやかシルバー病院主催 研修会2回
 - 福井県長寿福祉課主催 研修会1回
 - 福井県社会福祉協議会主催 研修会1回
- ・ 介護支援専門員研修に対する研修費用の助成に取り組む予定でしたが、研修を受講できませんでした。

(2) 訪問介護事業

① 広報活動・説明会による人材確保の推進

- ・ ヘルパー資格を有する新規入会員に、就業の呼びかけを行いました。
 - 資格を有する新規入会員5名に対して、業務内容を説明するとともに、就業の呼びかけを実施しました。
 - かわら版(7月)で就業の呼びかけを実施しました。

【成果】新規就業会員 5名

- ・ 介護労働安定センター（市委託）からの現場実習生の受け入れと就業への勧誘に取り組む予定でしたが、実習生がいませんでした。

② 新規利用者の開拓活動

新規利用者の拡大のため、地域包括支援センターや各居宅支援事業所との連携強化に取り組みました。

【成果】連携強化による新規利用者 46 名

③ 会員・職員の資質向上

- ・ 訪問介護の新規就業会員に対して、就業する際に個別に研修を実施しました。

- 新規就業会員 5 名の研修 6 回

- ・ 訪問介護の就業会員に対する個別支援や課題解消のため、四半期ごとに事務連絡会を行いました。

- ヘルパー研修会(4 回)・個別研修会(3 回) 受講者 150 名

- ・ 自己研鑽のため、他の機関が開催する研修等に積極的に参加しました。

- すこやかシルバー病院 3 回・福井県社会福祉協議会 6 回

④ 利用者定着の強化

利用の定着を図るため、利用者に対し、誕生月に心のこもったメッセージを添えてプレゼントを進呈しました。

- 利用者の誕生月のプレゼント 110 人

メッセージ付き手作り小物入れ・除菌ウェットティッシュ

⑤ 訪問事業配分金の見直し

- ・ 利用者からの介護サービスキャンセル・変更があった場合にキャンセル料を徴収しました。

【実績】 25 件・25,000 円

- ・ 交通費支給の見直しについて検討し、令和 5 年度より実施します。

- ・ 国の動向に添って配分金を見直しました。

- 研修参加者への支援 (510 円)

【実績】 125 人・63,750 円

(3) 通所介護事業

① 新規利用者の拡大

- ・ 新規利用者の拡大のため、ひだまりの家の活動チラシを作成しました。
- ・ パンフレットと活動チラシを、近隣の地域包括支援センターに配布しました。

- 活動チラシの作成 (6 月) 職員の手作り

- 配布 中央北、不死鳥、北、あたご

【成果】新規利用者 6 名

7. 財政の健全化

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により受注事業が減少し、それに伴い事務局運営の主な財源である事務費収入が減少し、厳しい財政状況となっていることから、財源確保と経費削減に取り組みました。

(1) 財源確保

① 事務費収入の増収

受注事業の拡大により事務費収入の増収を図りました。

- 受注事業(請負・派遣、介護事業を除く。)

[R3 年度] 719,626 千円 → [R4 年度] 786,567 千円

- 事務費等収入

[R3 年度] 64,256 千円 → [R4 年度] 74,356 千円

② 安心・便利な会費の納付

会費の納付方法について、これまでの方法(直接納付・銀行等振込)に加え、コンビニ納付を導入しました。令和5年度は口座振替を導入する予定であり、会員の利便性の向上と確実な会費徴収に取り組みます。

- コンビニ納付 837 名

- 口座振替申込者(3/31 現在) 12 名

③ 国・市からの補助金の確保

市の財政状況が厳しい中、市の補助金については、昨年引き続き、通常分に上乗せした額を確保することができました。

- 国の補助金 35,000 千円 ※ 市の補助金を上限とする規定

- 市の補助金 35,000 千円(通常分 33,500 千円・上乗分 1,500 千円)

(2) 経費削減

① 職員数の適正化

職員定員の適正管理のため、職員配置適正化計画を策定しました。

- 職員配置適正化計画 10 月策定

② 事務経費の削減

会員への通知等を郵便からデジタルへと移行し、印刷封入作業及び郵便代等の経費削減をはじめ、経費全般の削減に取り組みました。

【成果】削減額 2,020 千円

③ 事務所の統合による経費節減

会員の利便性の向上及び事務効率向上並びに経費節減の観点から、フェニックス・プラザにある事務局をワークプラザに移転することの検討に取り組みましたが、会員及び施設利用者の十分な駐車スペースが確保できないことから、当面、事務所の統合は困難であるという結論となりました。

8. 適格請求書等保存方式（インボイス制度）の導入への対応

令和5年10月に、消費税において適格請求書等保存方式（インボイス制度）が導入予定であり、その対応について、次のとおり取り組みました。

(1) 特例制度の制定〔第1の対応策（最善策）〕

インボイス制度導入後は、シルバー人材センターは多額の消費税を負担しなければならないことから、国に対して、会員に支払う配分金については、インボイスがなくとも仕入等に係る消費税額に認められる特例制度の導入を、全国及び県内すべてのシルバー人材センターと連携して要望活動に取り組みましたが、特例制度の導入は認められませんでした。

(2) 消費税の財源の捻出〔第2の対応策〕

特例制度の導入は認められなかったものの、国において、シルバー人材センター及び会員が負担増とならない包括的契約方式の導入が検討されました。

包括的契約方式では、会員の配分金については、税務処理上、発注者と会員との契約と見なされ、会員への配分金に伴う消費税増税の負担は、発注者（個人や行政等を除く企業等の消費税納税義務者）の負担となります。

従って、包括的契約方式導入後は、インボイス導入に伴うシルバー人材センターの消費税増税の負担はなくなります。

このようなことから、本市シルバーでも、令和7年4月1日を目途に包括的契約方式を導入することを決定しました。

また、包括的契約方式導入前の令和6年度分の消費税の負担額を確保するため、さらには、包括的契約方式移行後も継続発注されるよう、発注者の消費税負担分を値引きすることが不可欠であり、その財源を確保するため、令和6年4月1日に料金改定を実施することを決定しました。

なお、令和5年度分の消費税については、シルバーの財政運営資金積立などを財源として対応します。

(3) 会員への周知・説明

令和5年度において、「インボイス制度導入、料金改定、包括的契約方式への移行」について、かわら版や各種会議等で、会員に対して、しっかりと周知・説明に取り組みます。

9. その他

(1) 新型コロナウイルス感染防止対策として「福井県県民行動指針」に基づく行動を呼びかけ、引き続き手指の消毒やうがいの励行等の感染防止対策の徹底に取り組みました。

(2) シルバー人材センターの活動を通して、SDGsの取り組みを推進しました。